

技術開発の街つくばを目指して
つくば市
知的資産経営支援レポート



平成25年
▼
平成27年

イノベーション力を 高める知恵の経営

解説 「知恵の経営」とは？

自社が培ってきた強みの源泉を知り、
積極的に活用することで経営の質を高める

モデル企業インタビュー

平成25年度～27年度のモデル企業(全15社)のインタビュー

モデル企業フォローアップインタビュー

知的資産経営に取り組んだことによる変化

3年間の実施事業

知的資産経営の普及・啓発と導入促進のためのつくば市の取り組み

つくば市からのメッセージ

企業のイノベーション力を基盤から育成する

つくばテクノロジー 株式会社

代表取締役社長 王 波 氏

【会社概要】

- 本 社 茨城県つくば市千現1-14-11
- 設 立 2005年7月
- 資 本 金 2000万円
- 事業内容 レーザー超音波関連機器、X線関連機器、非破壊検査機器の開発、製造、販売

研究開発力と強みの源泉である 知的資産を融合。会社の方向性を明確化

—レーザー超音波可視化検査装置を世界初で製品化しています。製品を開発する時に大切にしていることは何ですか？

創業前は産業技術総合研究所で超音波を利用した先端非破壊計測技術の研究に従事していました。研究開発した技術を製品化し、社会に貢献するため2005年に創業しました。創業から2年後、産総研技術移転ベンチャーの認定を受けました。創業してから開発、製品化したものがレーザー超音波可視化検査装置「LUVI (ルヴィ)」です。検査対象物にレーザーを照射し熱ひずみを発生させ、それを超音波として映像で可視化できるようにしました。従来でも超音波として可視化する検査方法がありましたが、表面の平たんな面でしか検査することができませんでした。それを当社独自の計測技術で複雑形状の対象物を、可視化してかつ高速に検査することができるようになりました。自動車向けの炭素繊維強化プラスチック (CFRP) やプラント配管などの欠陥箇所を発見する検査装置として使われています。現在ではその

ほかにも、小型軽量で省電力の産業用小型X線検査装置などを開発しています。

—知的資産経営報告書作成に取り組んだ理由は何ですか？

研究開発に従事して自身の技術を世の中に役立たせたいとの思いで創業し、技術があれば大丈夫、夢があれば事業はうまくいくと考えていました。しかし、自社の強みを再確認して見える化、体系化する必要性を感じ始めていました。そんな時に、つくば市が知的資産経営報告書作成支援をしていることを知りました。経営について深く考えたことはなく、早めに取り組んだ方が会社のために良いと判断しました。

—取り組むプロセスで見えてきたこと、気付いたことは何ですか？

自身が研究開発してきた技術が世に認められ、経済産業省の「第6回ものづくり日本大賞」優秀賞をはじめさまざまな表彰をいただくことができました。その認められている理

由となっている強みの源泉である経営理念をはじめとした自社の見えない価値、強みを見出し明確化することができました。そのためにどういった人材を配置しなければいけないなどといった、具体的な会社の進むべき方向性が見えてきました。

—知的資産を生かすことにより、今後どのような効果が期待できますか？

経営理念である「創造」「発展」「貢献」ということをさらに社内に浸透させ、世の中に役立つ製品を量産化して生み出して、つくばから世界へ発信していきたいです。研究開発だけでなく、自社の製品を量産化するための製造工場をつくることも視野に入れていきます。今回の知的資産経営報告書作成を通して気付いた強みの源泉と研究開発力を融合させて会社を発展させていきたいです。